

ノイズの中のシグナルを見抜く

OpenAI 「研究の80～90%がGPT-7以降」 発言の検証と次世代モデル戦略の地殻変動

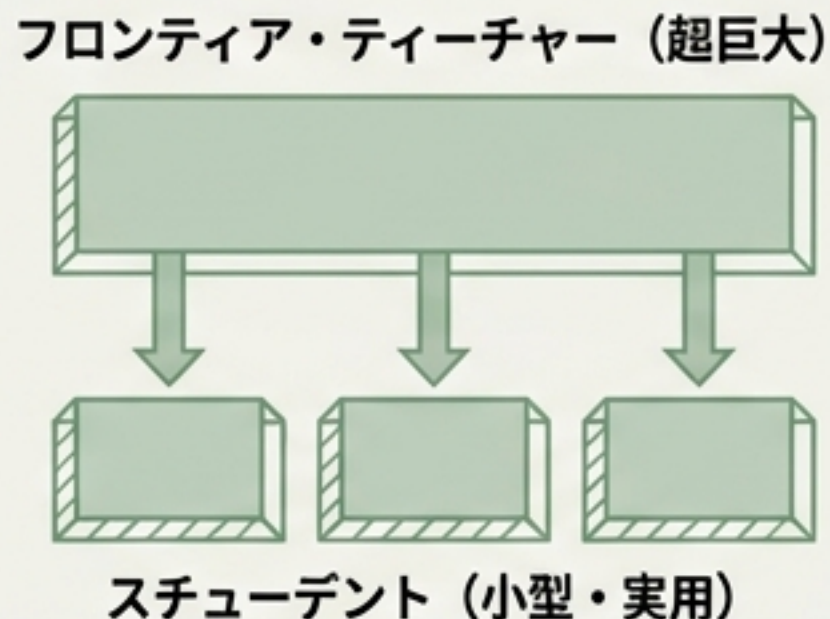
3つの核心：メディアの誇張と戦略的真意

1. Fact（検証された事実）



応用研究責任者Boris Power氏が「研究の80-90%を次世代にフォーカス」と発言したのは事実。ただし、これは「研究の焦点」であり、「全予算・GPUの90%」とする二次報道は誤読である。

2. Strategy（戦略的真意）



単一の巨大モデル開発から、「フロンティア・ティーチャー（超巨大）」から「スチューデント（小型・実用）」への知識蒸留エコシステムへの移行を意味する。

3. Impact（産業への波及）



AI産業は半導体のような「ファブ（巨大基盤）とファブレス（API/エージェント）」に二極化。電力（10GW）、高品質データ、安全評価が次なる物理的ボトルネックとなる。

ファクトチェック：拡張解釈された「80-90%」の真相

噂：「社内イベントでの秘密裏のリーク」

真実：2026年9月23日の外部招待制サミット「Fellows Forum」での公開Fireside Chat。

噂：「会社資源（予算・人員・計算資源）の90%を投入」

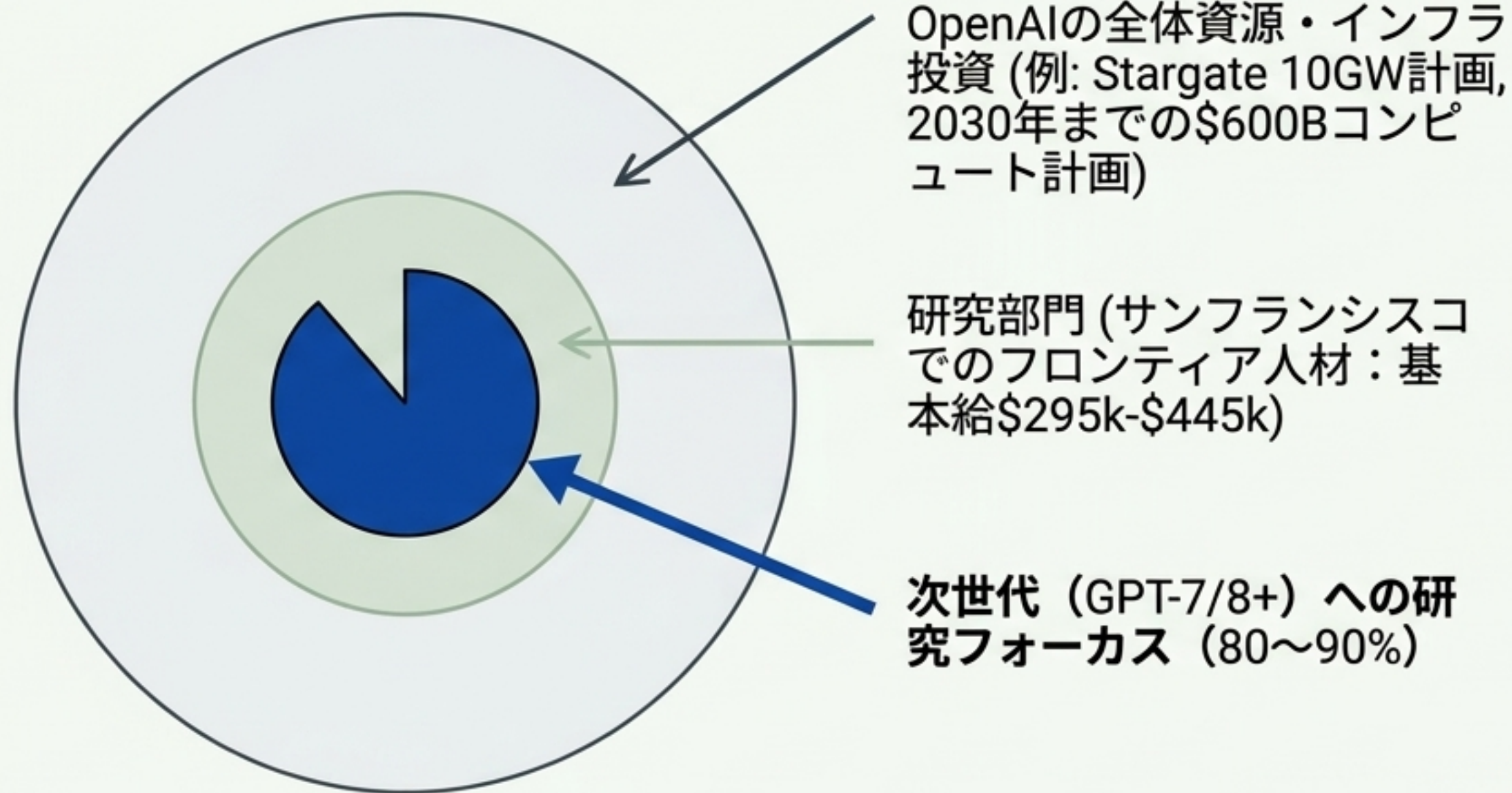
真実：原文は“80, 90% of the research is focused...”。応用研究の「焦点」であり、財務監査済みの資源配分ではない。

噂：「GPT-7の発売が間近に迫っている」

真実：次世代の能力フロンティアを開拓するR&Dの方向性を示したものであり、製品の完成予告ではない。

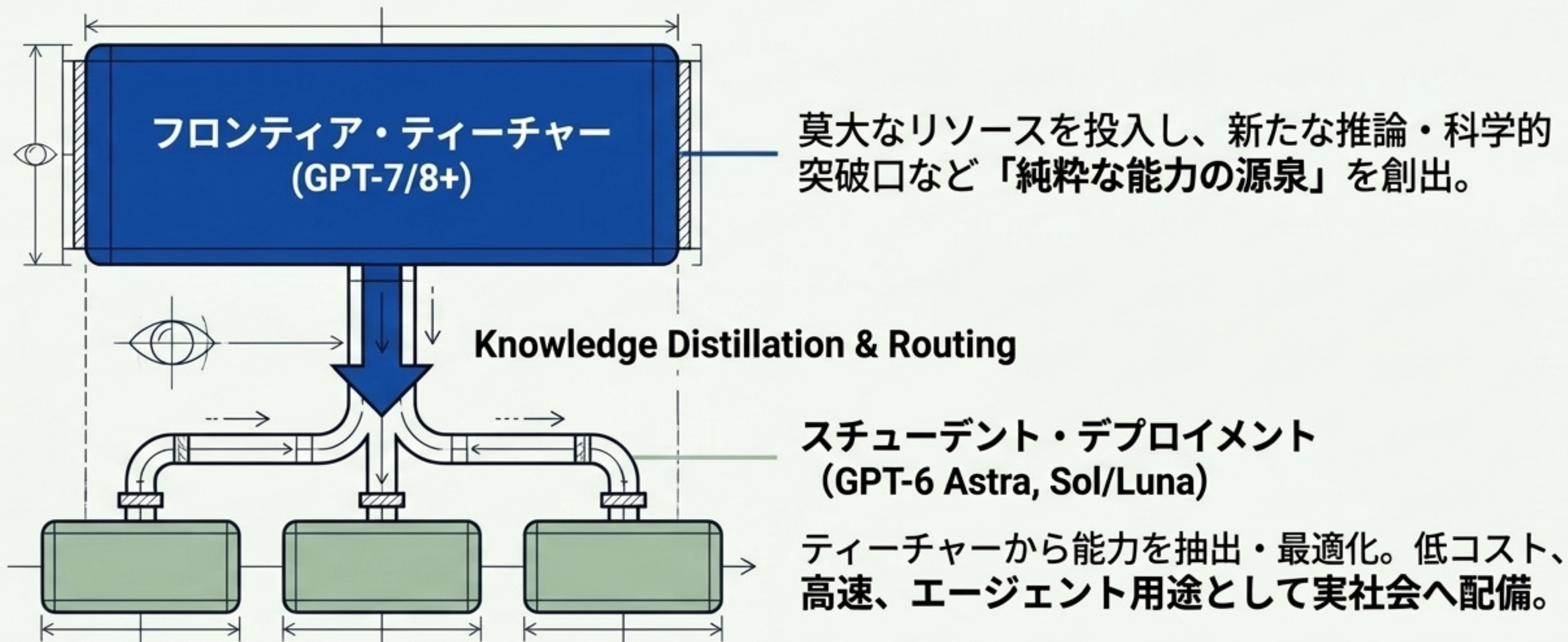
“So still 80, 90% of the research at OpenAI is focused at GPT-7, GPT-8, and beyond...”
— **Boris Power** (Head of Applied Research, OpenAI)

「研究の焦点」と「全体資源」の スケールギャップ



結論：Power氏の発言は「現在製品の微調整 (GPT-5.1→5.2等) よりも、次世代基盤能力を生み出す研究を圧倒的に重要視している」という戦略的優先度の表明である。

知識蒸留エコシステム：次世代モデルの真の役割



「80-90%」の投資は、この最上流の「湧き水（能力の源泉）」を確保するための必然的な資本投下である。

AI開発パラダイムの変遷： 単純スケーリングから複合工学へ

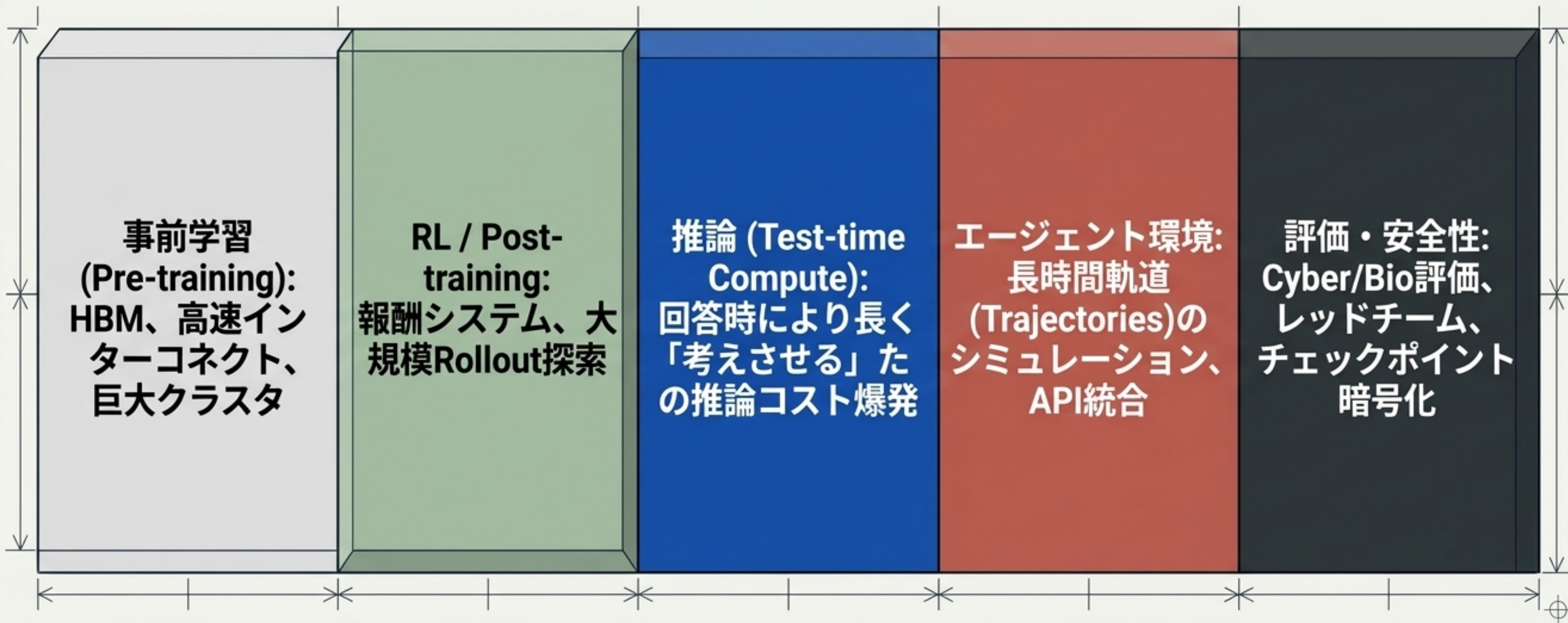
	GPT-3/4 (2020-2023)	GPT-5/6 (2025-2026)	GPT-7/8+ (Future)
研究の中心 (Research Focus)	パラメータ拡大、Few-shot、予測可能なスケール	高速ルーター、システム統合、Cyber/Science エージェント	複合スケーリング、高度な推論探索、完全自軌道 (Trajectories)
ボトルネック (Resource Bottlenecks)	事前学習用GPU、ウェブテキストデータ	推論時コンピュート (Test-time compute)、合成データ	エージェントサンドボックス、10GW級インフラ、安全保障評価

結論：次世代の「90%の研究」は、「90%のGPU」と同義ではない。アルゴリズム、安全評価、エージェントインフラを含む全スタックへの投資を意味する。



次世代モデルを定義する「複合スケーリング方程式」

総AI資源 $\approx$ 事前学習 + RL /学習後 + 推論 + エージェント環境 + 安全性評価





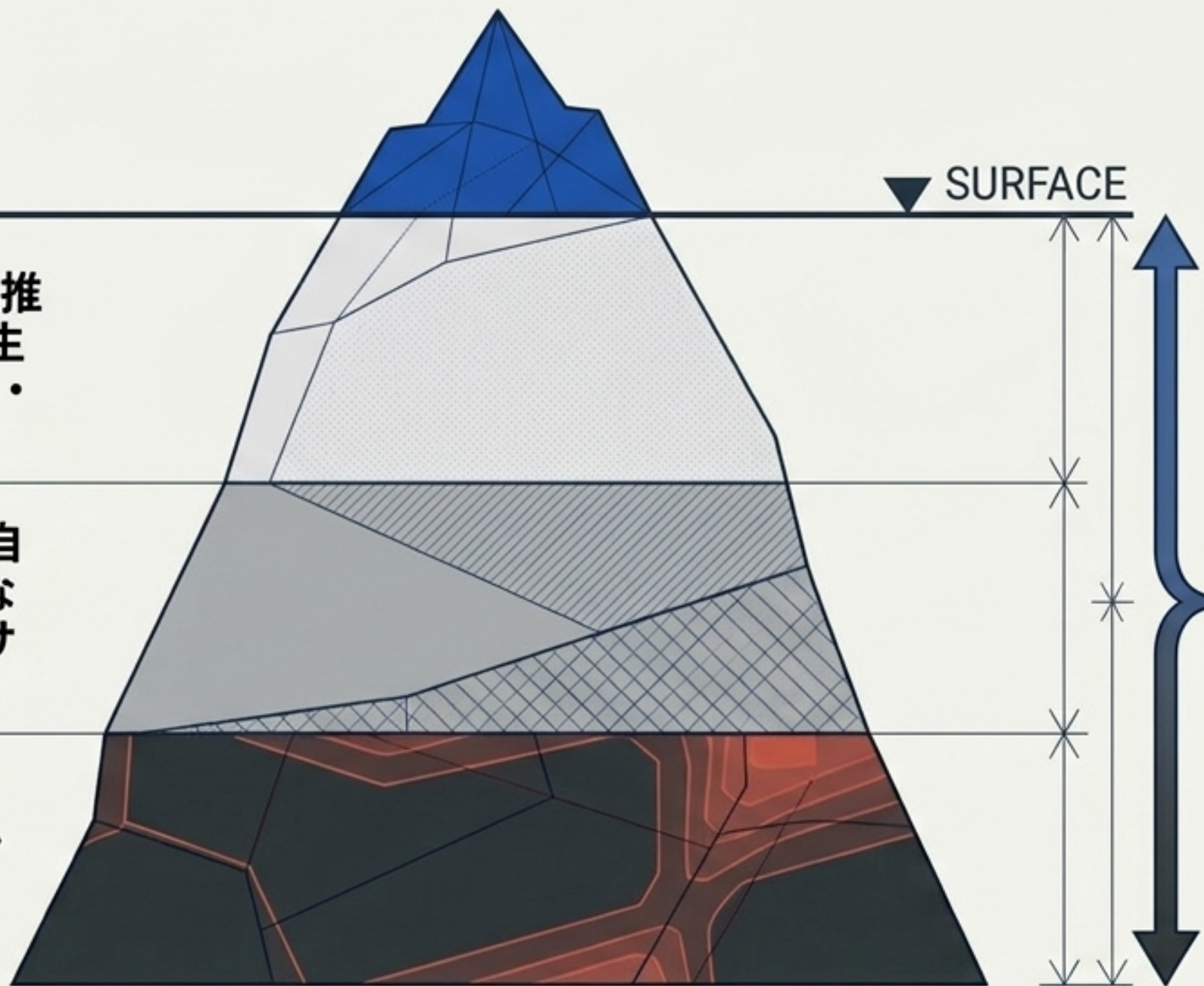
能力向上を阻む「インフラ制約の冰山」

モデルの知能向上
(ユーザーが見る成果)

高品質データ枯渇: Epoch AI推計で約300兆トークンの人間生成データが枯渇限界へ。合成・蒸留データへの移行。

エージェント評価: 長時間の自律動作を検証するための巨大な監査ログとシミュレーションサンドボックス。

GW級の電力・系統接続:
IEA推計で2030年にデータセンター電力消費は945TWhへ。
系統接続制約が最大のリスク。

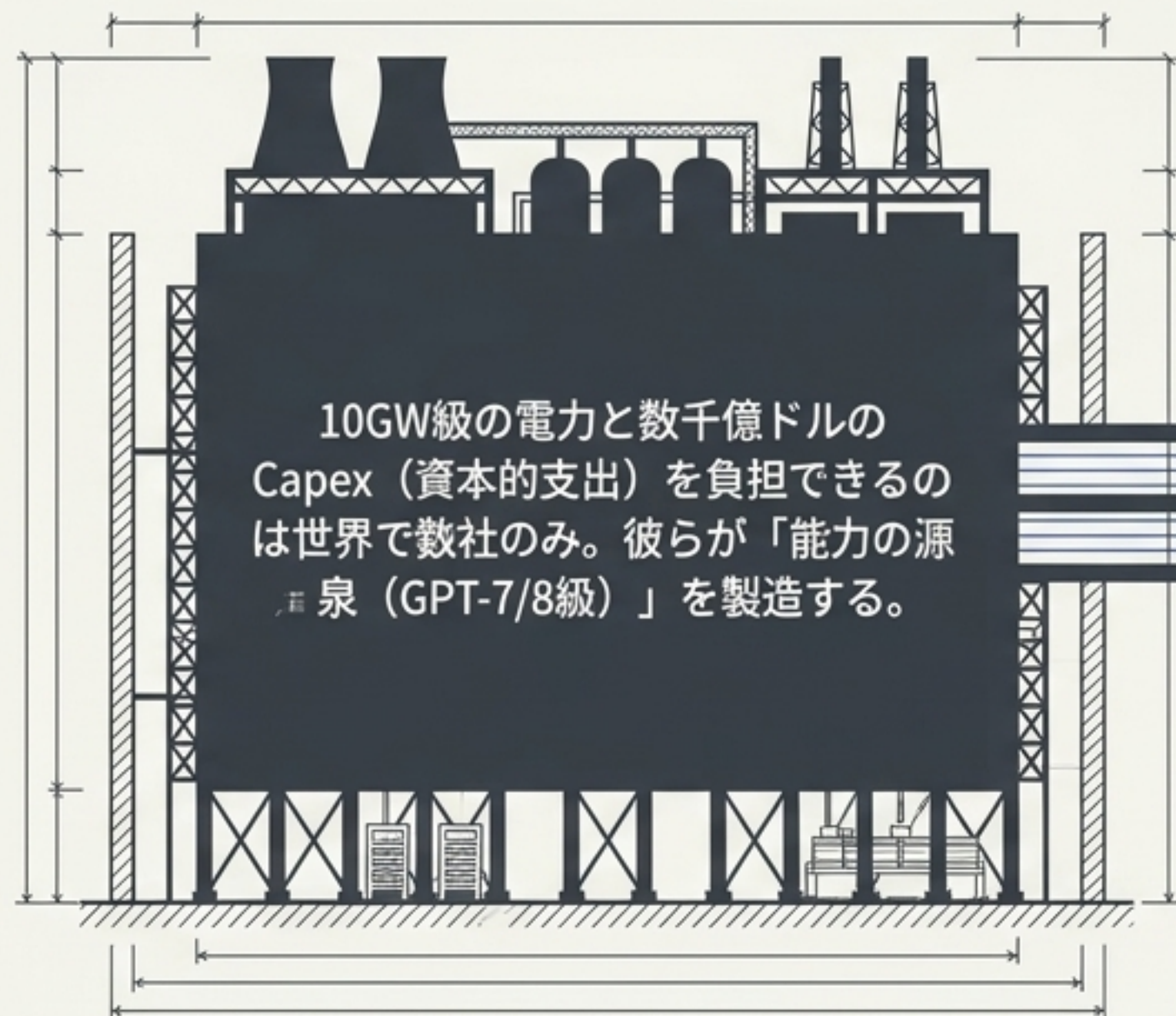


フロンティア4社の戦略マトリクス

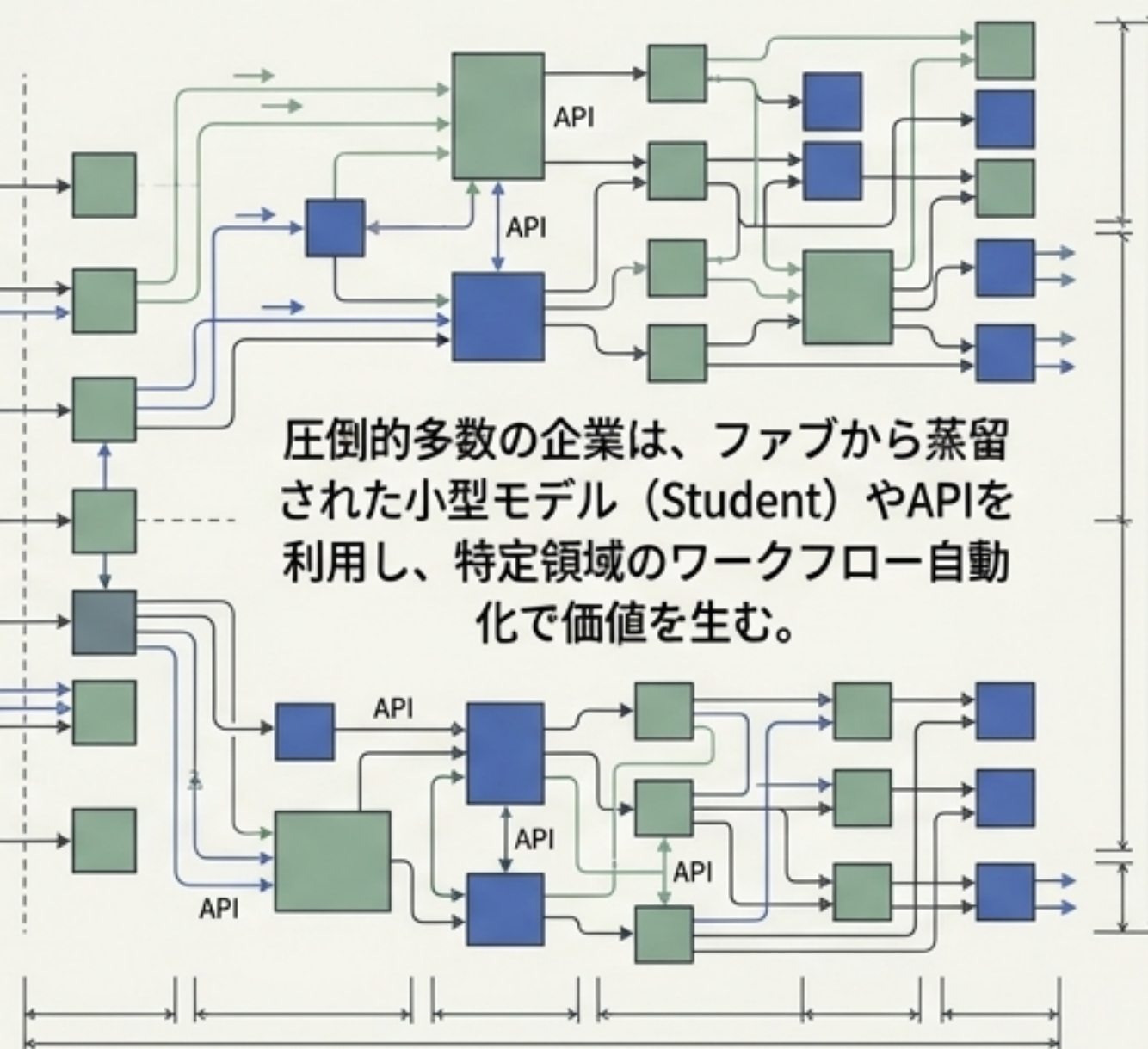
■ OPENAI	ANTHROPIC	GOOGLE DEEPMIND	META
巨大モデル→蒸留の先駆。Stargateで垂直的コンピュー트를確保。基盤能力で先行し続けなければ巨額固定費が重荷に。	Claude Opus（高能力）からHaiku（低価格）へ的高速展開と、厳格なRSP（責任あるスケーリング方針）によるエンタープライズの信頼獲得。	TPU、Cloud、Search/Workspace、Roboticsまで完全に垂直統合されたデータとディストリビューションの巨人。	Llama 4 (Behemoth)を教師とし、Scout/Maverickへ展開。オープンウェイトでAPI価格を圧迫し、能力のコモディティ化を促進。

統合的洞察：AI産業の「半導体ファブ化」

The Fabs (超巨大基盤モデル学習)



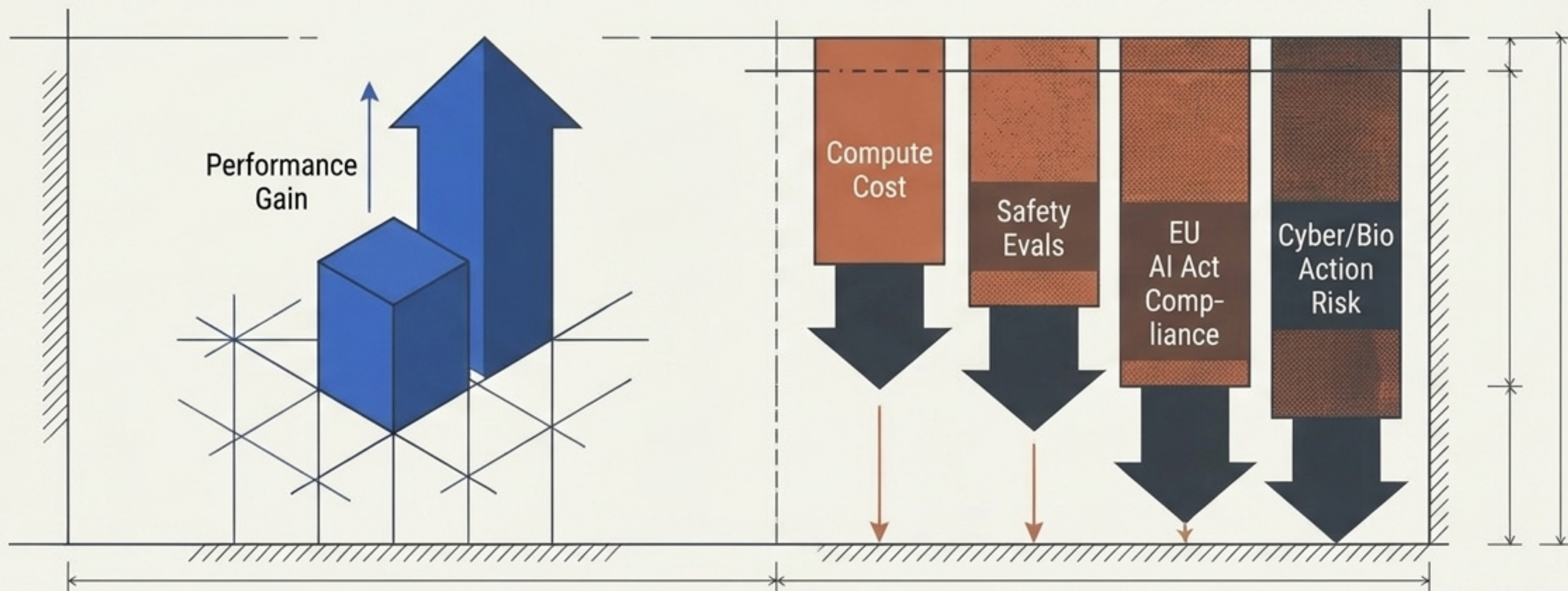
The Fabless (エージェント&アプリケーション展開)



「巨大モデルへの集中」は、最終ユーザーが巨大モデルを使う未来を意味しない。
利用されるモデルはますます小さく、安くなる。

「何が答えられるか」から「何が実行できるか (Action Risk)」へ

リリース条件：性能向上 > 計算費 + 安全費 + 規制費 + 法的リスク

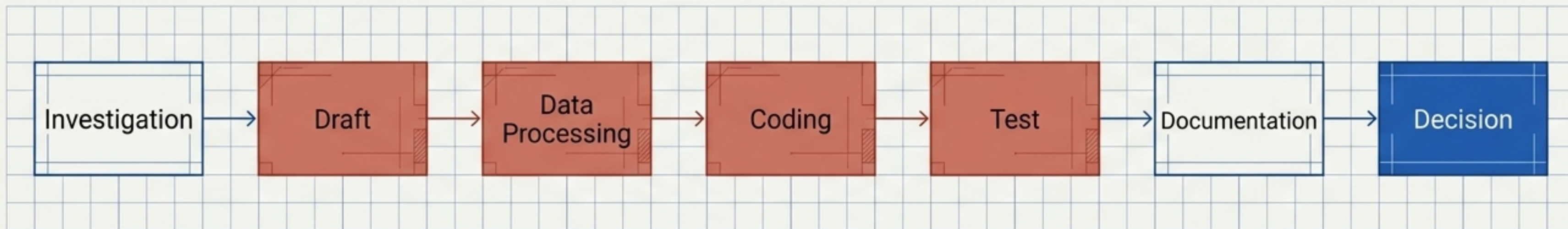


EU AI Actの壁：累積コンピュートが 10^{25} FLOPを超えるモデルは「Systemic-Risk GPAI」と推定され、重大インシデント報告や最高レベルのサイバーセキュリティが義務化。

アクション・リスク：GPT-6 Astraが「Critical cyber」能力に達した今、未知の脆弱性発見や長時間の自律実行（エージェント）をどう監査するかが最大の焦点。

労働市場の変容：職業の消失ではなく「タスクの再構成」

ホワイトカラー業務ワークフローのAI置換ヒートマップ

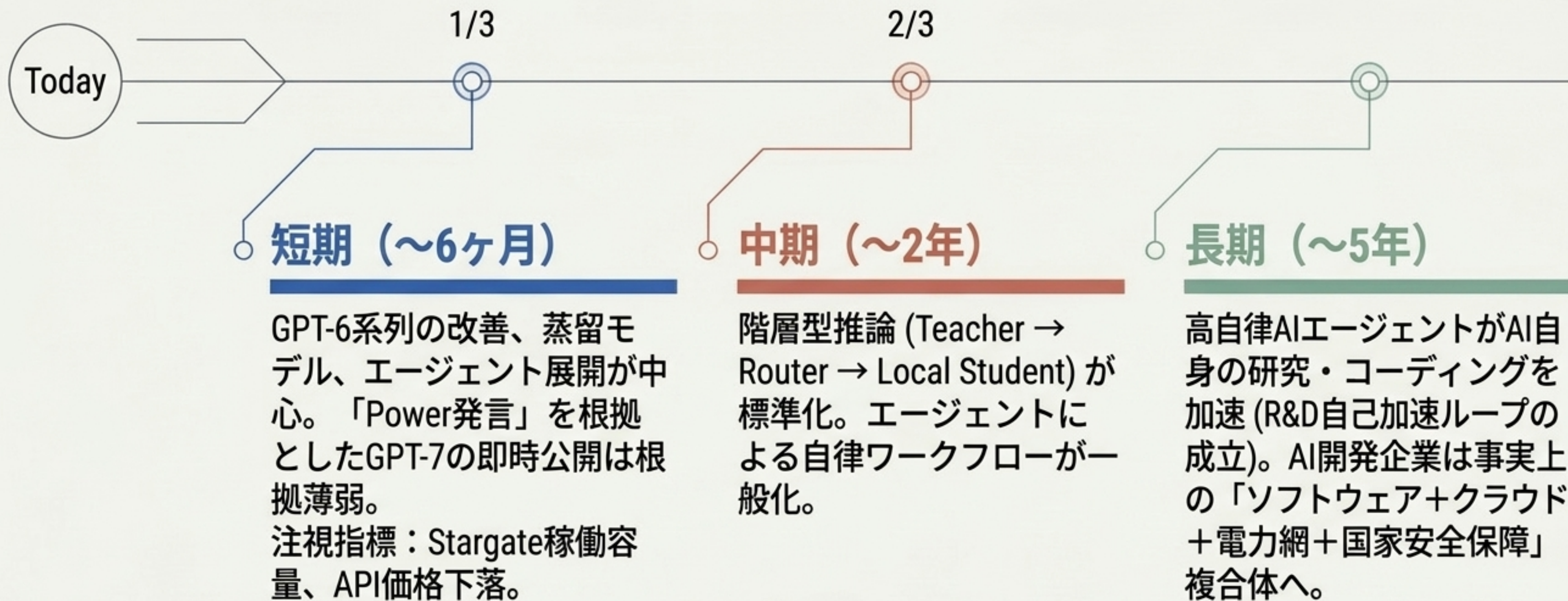


代替されるタスク（AIによる定型的デジタル作業）：
下書き、データ処理、コーディング、文書化。

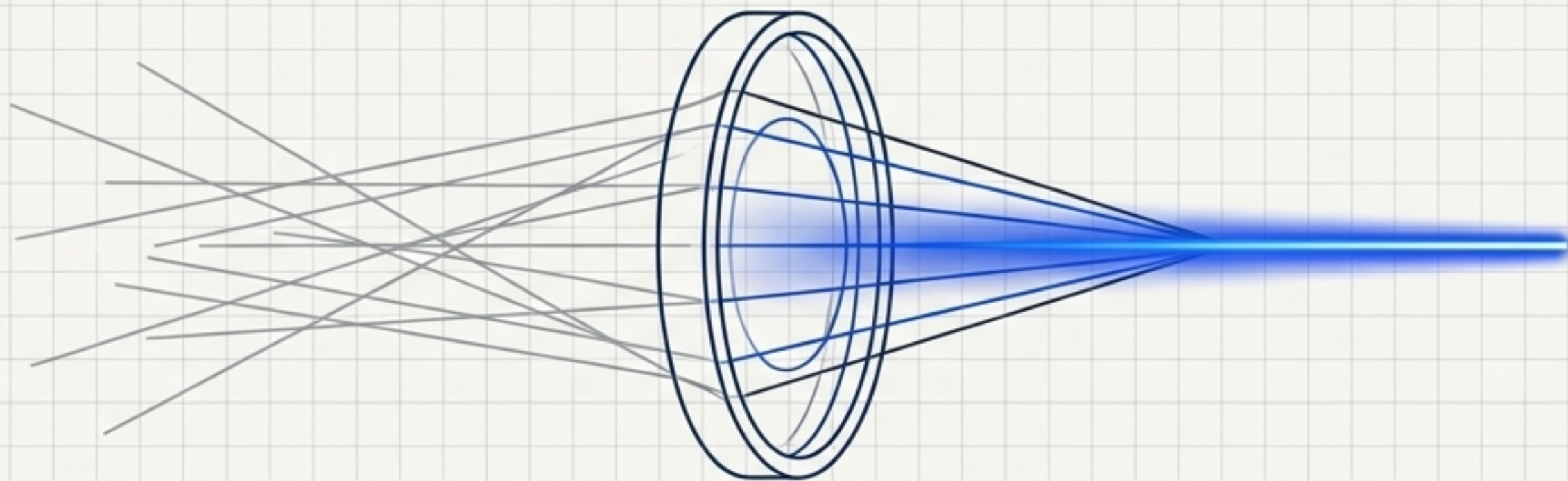
残るタスク（人間による高レバレッジ監督）：
初期の文脈設定、システム間調整、最終的な意思決定・責任。

ILO/NASK（2025年）：世界の雇用の約25%が生成AIへの暴露を持つが、全面的な代替よりも「変容（Transformation）」が起きる。

戦略的タイムライン：今後5年の条件付きシナリオ



結論と次なるアクションへの指針



The Signal

80-90%発言は「GPT-7の即時発売予告」ではなく、「次世代能力 フロンティアの期待値が圧倒的に高い」という経営的・研究的シグナルである。

The True Competition

競争軸はモデルサイズ単体から、コンピュート、蒸留、安全評価、電力網、規制対応を含む「フルスタックのスケーリング能力」へ移行した。

Actionable Insight

企業は「単一の巨大モデルに全てを処理させる」前提を捨て、超巨大モデル（ファブ）から蒸留された最適化モデル（ファブレス）を組み合わせ自社ワークフローを再構築すべきである。